

Event report 1 モルモットの ロングカクカク橋渡り

飼育展示担当(動物専門員) 佐藤 有紀乃



雪の動物園で初開催したロングカクカク橋渡り



大森山動物園オリジナルの直角コース

モルモットの「ロングカクカク橋渡り」は、飼育員が製作した専用の橋をコースとして、モルモットたちが行進する様子を間近で観察し、モルモットがどんな動物なのか、楽しく学べるイベントです。この橋は、従来のまっすぐな「ストレートコース」に、カクカクした「直角コース」を付け足したのですが、直角コースを渡るモルモットが見られる動物園は大変珍しいと思います。

このモルモットの「ロングカクカク橋渡り」は、2025年2月に開催した「雪の動物園」の特別イベントとして初めて行いました。

イベントに向けて、約2か月前から橋の製作に取りかかりました。まずは、作りたい橋の長さ合う木の板や棒を集めることから始めました。新しい木材を購入するだけでなく、節約のために園内の至る所から木材を探し出し、毎日の飼育作業の合間にコツコツと橋の製作を進めました。おかげで、橋本体は1か月もかからずに完成しました。

しかし、橋の本体が完成しても終わりではありません。本体を支える脚を作る必要もあります。全部で10脚をXの形にして作るのですが、このXの角度をすべての脚でそろえないと橋がまっすぐにかからないため、ずれが生じないように繊細な作業が求められました。私1人では絶対にできない作業でしたが、先輩スタッフの協力やアドバイスを受けながら、なんとか橋全体を完成させることができました。

橋の完成後は、本番に向けて橋渡りの練習を繰り返しました。当初はなかなか列が繋がらず、全頭完走することが難しかったのですが、地道に練習を繰り返すうちに、全頭がスムーズに橋を渡れるようになりました。

そして迎えたイベント当日。モルモットたちは少し緊張気味で、コースの途中で渋滞を起こすこともありましたが、たくさんのお客さんの応援を受けて全頭無事に橋を渡りきってくれました。

普段はふれあい動物として人気のあるモルモットですが、集団行動の習性や学習能力があること、嗅覚を生かして橋を渡ることなど、「ロングカクカク橋渡り」を通じて、モルモットの魅力をもっとたくさんの人に伝えていきたいと思っています。



飼育員同士の協力によって
完成したコース



練習で列がつながるようになった
モルモット



緊張のイベントスタート



お客さんに応援されて無事に完走

ニホンイヌワシと森林の 生物多様性を守る取組について



ニホンイヌワシの概要

飼育展示担当(獣医師)副参事 小川 裕子

ニホンイヌワシは、森林生態系における食物連鎖の頂点に位置する大型猛禽類です。現在、国内に生息するニホンイヌワシは約500羽と推定されていますが、生息環境の悪化による生息分布域の縮小、つがい数の減少や繁殖成功率の低下等により、ここ30年ほどで急激に減少しています。

絶滅危惧種を守るための取組としては、自然の生息地そのものを保全する生息域内保全と、動物園などの安全な施設に保護し、繁殖などにより個体数を増やす生息域外保全があります。ニホンイヌワシについて、国では生息域内保全として、生息状況の把握やモニタリング、生息環境である森林の維持や改善等の取り組みを行っており、大森山動物園では、生息域外保全として、イヌワシの命をつなぎ、飼育技術と繁殖技術を高め、展示により来園者の方へ野生イヌワシの現状を伝えています。

東北森林管理局との コラボイベント

飼育展示担当(動物専門員) 宮原 星

2025年6月1日に開催した「春の動物ふれあいフェスティバル」で、生息域内でイヌワシの保全に関わっている林野庁東北森林管理局の森の専門家とのコラボにより、イヌワシについて理解を深め、私達の生活の中で森の保全に繋がる行動を考えるイベントを実施しました。

このコラボイベントは、講演会、クイズ大会、パネル展の3つの内容で構成されていました。

まず、講演会では、小松守名誉園長からイヌワシ飼育の歴史や生態等についてお話いただきました。また、東北森林管理局の岡崎仁美生態系保全係主任主事からは、森林の機能やイヌワシが狩りをしやすい森にするためには人間が森を活用する(木材を活用する)ことも重要であることや、イヌワシがいる森は森林生態系が保たれていることなどについてお話いただきました。



小松守名誉園長と東北森林管理局による講話

次に、クイズ大会「イヌワシと森のモリモリクイズ」では、森林の役割や管理、イヌワシを中心とした森の生き物について○×形式のクイズを行いました。問題の作成は森林管理局の岡崎主任主事と私で手分けして行いましたが、私自身も知らないことが多く、とても勉強になりました。なかなかの難易度に、大会では参加者も苦戦するかと思いきや、正解率は想像以上に高く、接戦となりました。



イヌワシと森のモリモリクイズ



パネル展「イヌワシが眺める森」

また、パネル展「イヌワシが眺める森」では、森と生き物の関わりをテーマとしたパネルを新たに共同制作し、園内に展示しました。パネルには、木登りが得意なアオダイショウや、糞で種をまくツキノワグマやニホンザルなど、生き物と森が互いに欠かせない関係であることが分かりやすく説明されていました。

大森山動物園ではこれまで、さまざまな形で環境教育に関するイベントを行ってきましたが、今回、森林管理局という森の専門家に協力していただくことで、より充実した内容をお客様にお届けできたと思います。また、私自身も新たな知識を得ることができましたので、それらを今後の大森山自然塾や自然観察会などに活かしていきたいと思っています。